

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-041875

(43)Date of publication of application : 08.02.2002

(51)Int.Cl.

G06F 17/60
G06F 17/30

(21)Application number : 2000-225063

(71)Applicant : SUMITOMO FORESTRY CO LTD

(22)Date of filing : 26.07.2000

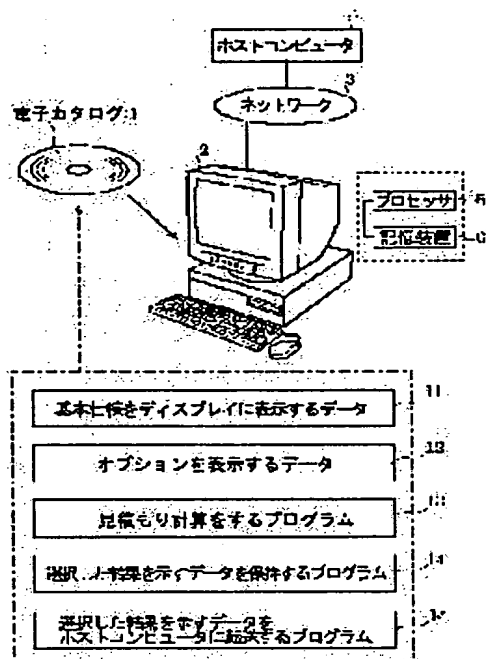
(72)Inventor : SOTODANI TAKAO

(54) ELECTRONIC CATALOG AND CLIENT INFORMATION ACQUIRING SYSTEM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an electronic catalog distributed from a computerized medium and a client information acquiring system utilizing this electronic catalog.

SOLUTION: An electronic catalog 1 is distributed as data of a form capable of offline operation so that a client can select an option by freely and slowly operating a computer 2 for a long time. The result obtained by estimating and calculating the price of the article is displayed on the display of the computer 2. Data showing the selected result of the option are stored in a storage device 6. These data are transmitted to a host computer 4 later. Thus, the estimate calculation of the specification of the article can be performed by offline operation and it is not necessary for a salesman or person in charge in a building firm to attend the site so that sales costs can be saved. The client can freely select the option while being relaxed at home, for example, without caring of the salesman or the like.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]	25.01.2001
[Date of sending the examiner's decision of rejection]	20.08.2003
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]	
[Date of final disposal for application]	
[Patent number]	
[Date of registration]	
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]	2003-18086
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]	18.09.2003
[Date of extinction of right]	

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

Best Available Copy

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード [*] (参考)
G06F 17/60	318	G06F 17/60	318 A 5B049
	ZEC		ZEC 5B075
17/30	160	17/30	160 D
	170		170 Z

審査請求 有 請求項の数 7 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2000-225063 (P 2000-225063)

(22) 出願日 平成12年7月26日 (2000.7.26)

(71) 出願人 000183428

住友林業株式会社

大阪府大阪市中央区北浜4丁目7番28号

(72) 発明者 外谷 隆夫

大阪府大阪市中央区北浜4丁目7番28号

住友林業株式会社内

(74) 代理人 100102923

弁理士 加藤 雄二

F ターム (参考) 5B049 BB05 CC11 DD00 FF01

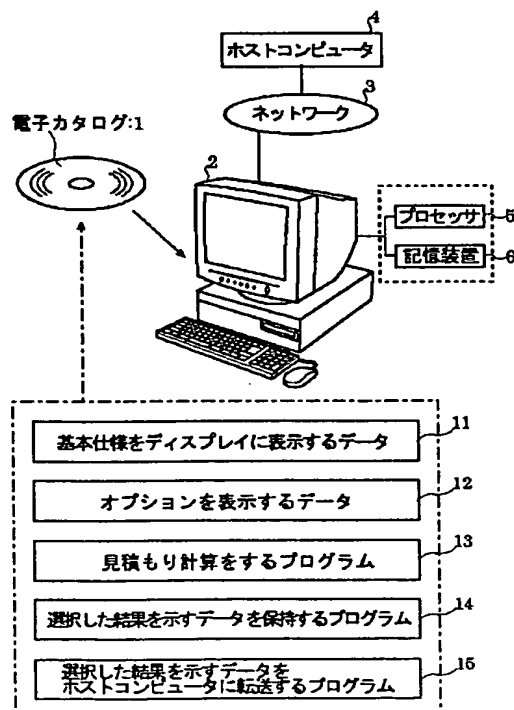
5B075 MM02 UU38

(54) 【発明の名称】 電子カタログ及び顧客情報取得システム

(57) 【要約】

【解決手段】 電子カタログ1は、顧客が自由にゆっくりと時間をかけてコンピュータ2を操作してオプションの選択作業ができるようにオフライン操作が可能な形式のデータで配布される。商品の価格を見積もり計算した結果は、コンピュータ2のディスプレイに表示される。オプションを選択した結果を示すデータは記憶装置6に記憶される。そのデータは、その後ホストコンピュータ4に送信される。

【効果】 商品の仕様の見積もり計算をオフライン操作ででき、営業マンや工務店の担当者がついていなくてよいから営業経費が節約できる。顧客は、例えば、自宅でゆっくりと営業マン等を意識しないで自由なオプション選択ができる



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 提供する商品の基本仕様をディスプレイに表示するデータと、

前記基本仕様に付加するための任意選択可能な複数のオプションを表示するデータと、

前記基本仕様に前記選択したオプションを付加した結果の、商品の価格を見積もり計算するプログラムと、

前記選択した結果を示すデータを記憶装置に記憶して保持するプログラムと、

この記憶装置を制御するコンピュータがホストコンピュータに接続されたとき、前記選択した結果を示すデータをホストコンピュータに転送するプログラムとをコンピュータ読みとり可能な記録媒体に記録した電子カタログ。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の電子カタログにおいて、

さらに、基本仕様の価格と選択したオプションを付加した商品の合計価格との差額を、オプション選択動作直後にディスプレイに表示する制御を行うプログラムを含めたことを特徴とする電子カタログ。

【請求項 3】 請求項 1 に記載の電子カタログにおいて、

基本仕様をディスプレイに表示するデータと、顧客の指定したプランのオプション選択に必要な範囲で選択された複数のオプションを表示するデータとを予め選別して媒体に記録したことを特徴とする電子カタログ。

【請求項 4】 請求項 1 に記載の電子カタログにおいて、

予算額の入力を求めて、この予算額と選択したオプションの価格の総額とを比較した結果を表示するように制御するプログラムを含めたことを特徴とする電子カタログ。

【請求項 5】 請求項 1 に記載の電子カタログにおいて、

オプション選択決定までの操作過程と、オプション選択決定の結果とを記録したデータを、記憶装置に記憶して保持するように制御するプログラムを含めたことを特徴とする電子カタログ。

【請求項 6】 提供する商品の基本仕様をディスプレイに表示するデータと、前記基本仕様に付加するための任意選択可能な複数のオプションを表示するデータと、前記基本仕様に前記選択したオプションを付加した結果の、商品の価格を見積もり計算するプログラムと、前記選択したオプションを示すデータを記憶装置に記憶して保持するプログラムと、この記憶装置を制御するコンピュータがホストコンピュータに接続されたとき、前記選択したオプションを示すデータをホストコンピュータに転送するプログラムとを記録したコンピュータ読みとり可能な記録媒体と、

この記録媒体を装着して、前記商品の基本仕様とオプション

を表示し、前記見積もり計算を実行して選択したオプションを示すデータを記憶する記憶装置を制御するコンピュータと、

このコンピュータからネットワークを介して前記選択したオプションを示すデータの転送を受けるホストコンピュータとからなることを特徴とする、顧客情報取得システム。

【請求項 7】 請求項 6 に記載の顧客情報取得システムにおいて、

ホストコンピュータは、前記選択したオプションを示すデータとともに、

前記オプション選択決定までの操作過程と、オプション選択決定の結果とを記録したデータの転送を受けることを特徴とする顧客情報取得システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、電子化媒体により配布される電子カタログ及び、この電子カタログを利用した顧客情報取得システムに関する。

【0002】

【従来の技術】 例えば、注文住宅の仕様選定から発注に至る過程では、顧客は住宅設計に関わる様々なカタログを見ながら、工務店の説明を受けて、予算や希望に応じた設計の依頼をする。この設計のために、工務店は住宅の基本設計図面や、各種オプションのカタログを用意して顧客に提供する。顧客は、例えば、部屋の間取りや壁紙の色、屋根の形状や外壁の色に至るまで、家族がいれば家族全員で意見を交換して具体的な仕様を選定する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 上記のように、注文住宅の仕様選定には、膨大な資料やカタログを参照することが要求される。従って、顧客の選定作業が非常に複雑になり、負担が大きいばかりでなく、実際に各オプションを選定した結果、自分の住宅がどのようになるか、そのイメージを想像するのが困難になることも少なくない。そこで、CG (Computer Graphics) を利用して、立体的に住宅の外観や内部の状態を紹介する手法が盛んに採用されるようになった。例えば、CG を利用した電子カタログを CD-ROM により配布して、顧客がパーソナルコンピュータ等を用いて、具体的な映像を見ながら住宅の仕様選定を行うようにすれば、工務店と打ち合わせをする場合に比べてゆっくりと時間をかけた、分かりやすい仕様選定が可能になる。その反面、工務店の充分なアドバイス無しに顧客が自由な選定をすると、必ずしも最適な仕様選定ができるとは限らない。また、工務店も、顧客との対話無しに仕様選定が行われると、顧客の好みなどの情報を十分に把握できないため、的確なアドバイスができなくなるという問題がある。本発明では、このように電子カタログ等を用いた顧客による仕様選定システム利用の利点を活かしつつ、こうした従来の

問題を解決することを目的としてなされたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】〈構成1〉提供する商品の基本仕様をディスプレイに表示するデータと、上記基本仕様に付加するための任意選択可能な複数のオプションを表示するデータと、上記基本仕様に上記選択したオプションを付加した結果の、商品の価格を見積もり計算するプログラムと、上記選択した結果を示すデータを記憶装置に記憶して保持するプログラムと、この記憶装置を制御するコンピュータがホストコンピュータに接続されたとき、上記選択した結果を示すデータをホストコンピュータに転送するプログラムとをコンピュータ読みとり可能な記録媒体に記録した電子カタログ。

【0005】〈構成2〉構成1に記載の電子カタログにおいて、さらに、基本仕様の価格と選択したオプションを付加した商品の合計価格との差額を、オプション選択動作直後にディスプレイに表示する制御を行うプログラムを含めたことを特徴とする電子カタログ。

【0006】〈構成3〉構成1に記載の電子カタログにおいて、基本仕様をディスプレイに表示するデータと、顧客の指定したプランのオプション選択に必要な範囲で選択された複数のオプションを表示するデータとを予め選別して媒体に記録したことを特徴とする電子カタログ。

【0007】〈構成4〉構成1に記載の電子カタログにおいて、予算額の入力を求めて、この予算額と選択したオプションの価格の総額とを比較した結果を表示するように制御するプログラムを含めたことを特徴とする電子カタログ。

【0008】〈構成5〉構成1に記載の電子カタログにおいて、オプション選択決定までの操作過程と、オプション選択決定の結果とを記録したデータを、記憶装置に記憶して保持するように制御するプログラムを含めたことを特徴とする電子カタログ。

【0009】〈構成6〉提供する商品の基本仕様をディスプレイに表示するデータと、上記基本仕様に付加するための任意選択可能な複数のオプションを表示するデータと、上記基本仕様に上記選択したオプションを付加した結果の、商品の価格を見積もり計算するプログラムと、上記選択したオプションを示すデータを記憶装置に記憶して保持するプログラムと、この記憶装置を制御するコンピュータがホストコンピュータに接続されたとき、上記選択したオプションを示すデータをホストコンピュータに転送するプログラムとを記録したコンピュータ読みとり可能な記録媒体と、この記録媒体を装着して、上記商品の基本仕様とオプションを表示し、上記見積もり計算を実行して選択したオプションを示すデータを記憶する記憶装置を制御するコンピュータと、このコンピュータからネットワークを介して上記選択したオプションを示すデータの転送を受けるホストコンピュータ

とからなることを特徴とする、顧客情報取得システム。

【0010】〈構成7〉構成6に記載の顧客情報取得システムにおいて、ホストコンピュータは、上記選択したオプションを示すデータとともに、上記オプション選択決定までの操作過程と、オプション選択決定の結果とを記録したデータの転送を受けることを特徴とする顧客情報取得システム。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を具体例を用いて説明する。図1は本発明の電子カタログ及び顧客情報取得システムの具体例を示すブロック図である。図のシステムは、顧客が電子カタログ1をセットしてその内容を見るためのコンピュータ2と、このコンピュータ2にネットワーク3を通じて接続されるホストコンピュータ4とにより構成される。コンピュータ2は、例えば、顧客が所有するパーソナルコンピュータである。その中にはプロセッサ5や記憶装置6などが設けられている。

【0012】図に示す電子カタログ1はCD-ROM等の媒体に記録されている。電子カタログ1には、提供する商品の基本仕様をコンピュータ2のディスプレイに表示するデータ11と、基本仕様に付加するための任意選択可能な複数のオプションを表示するデータ12と、基本仕様に前記選択したオプションを付加した結果の、商品の価格を見積もり計算するプログラム13と、選択したオプションを示すデータを記憶装置6に記憶して保持するプログラム14と、この記憶装置6を制御するコンピュータ2がホストコンピュータ4に接続されたとき、選択したオプションを示すデータをホストコンピュータに転送するプログラム15が記録されている。

【0013】本発明において、電子カタログ1は、顧客が自由にゆつくりと時間をかけてコンピュータ2を操作してオプションの選択作業ができるようにオフライン操作が可能な形式のデータで配布される。即ち、CD-ROM等の媒体に記録した電子カタログ1を配布する。商品の価格を見積もり計算するプログラム13や選択したオプションを示すデータを記憶装置に記憶して保持するプログラム14を用意したのは、オフライン操作を可能にするためである。営業マンや工務店の担当者がついていなくてよいから営業経費が節約できる。

【0014】以上のように、顧客は、例えば、自宅のコンピュータ2でオプションの選択作業ができ、営業マン等を意識しないで自由な選択ができる。さらに、顧客がオプションを選択した結果を無駄にしないように、オプション選択の結果をホストコンピュータ側に転送するプログラム15を媒体に格納しておく。こうしたオプションの選択作業はオフラインで行うほうが通信コストがかからず経済的である。一方、オプションの選択結果を紙に書き写して受注をすると、転記ミス等も生じやすい。そこで、オプションの選択結果を示すデータを記憶装置

に記憶しておき、ホストコンピュータに接続したときに、データをホストコンピュータに転送するプログラム 15 が動作して、そのデータをホストコンピュータに自動的に転送できるようにした。

【0015】なお、このような媒体に格納した電子カタログ 1 のデータはかなりデータ量が多いので、ネットワーク 3 を通じた配信には不向きである。そこで、上記のように CD-ROM による配布を例示したが、高速大容量通信が可能なネットワークと端末が用意されていれば、これらのデータとプログラムを顧客のコンピュータに通信で配信するようにしてもよい。この場合にも、データのみでなく上記の機能を持つプログラムを一体に配信することで、以下の機能を発揮する。

【0016】ここで、提供する商品の基本仕様をディスプレイに表示するデータ 11 とは、例えば、顧客が和風建築で A プランの家を希望する場合に、その A プランの家を紹介する一般的なプレゼンテーションプログラムや、予め出された顧客の要望に沿って営業担当が作成した具体的なプランを示すデータと、間取り毎の積算面積、建具等の寸法や必要数量等のデータである。基本仕様 20 に付加するための任意選択可能な複数のオプションを表示するデータ 12 とは、基本仕様に対して追加したり、交換したりすることができる様々なオプションのイメージデータや部材名、部材コードや寸法や価格、部材選択に必要なガイダンスメッセージ等のデータである。

【0017】住宅の仕様のように、モデル毎に多種多様の規格やオプションが存在する場合、全てのデータを 1 枚の CD-ROM 等に収容するのは不可能である。また、不要なデータが多いとオプションの選択作業も複雑になりコンピュータの負荷も大きくなる。そこで、顧客の指定したプランのオプション選択に必要な範囲のデータのみを予め選別して、必要最小限のデータを記録した電子カタログを生成して顧客に配布するようにした。また、例えば、建物の大きさ（坪数）別、家族構成別等のプランに応じた電子カタログを予め用意していてもよい。これで、顧客のコンピュータあるいは工務店のコンピュータで顧客が自由に簡単にオプション選択作業ができる環境が整う。

【0018】基本仕様に選択したオプションを付加した結果の商品の価格を見積もり計算するプログラム 13 は、上記オプションを表示するデータに基づき、見積もり計算をする機能を持つ。見積もり計算した結果は、コンピュータ 2 のディスプレイに表示される。見積もり計算をして表示される結果は、合計額でも基本仕様との差額でも構わない。基本仕様の価格と選択したオプションを付加した商品の合計価格との差額を、オプション選択動作直後にディスプレイに表示するのは、顧客の予算を考慮したオプション選択作業の便宜をはかるためである。以下、本発明のシステムの具体的な動作を図面を参照しながら順に説明する。

【0019】図 2 は上記のシステムを用いたオプションの選択とその結果の送信動作を示すフローチャートである。まずステップ S1 において、顧客は図 1 のコンピュータ 2 に電子カタログ 1 をセットする。次にステップ S2 において、仕様を表示するプログラムをスタートし、基本仕様のプレゼンテーションを実行する。以下の処理を、具体的な表示画面例を参照しながら説明する。

【0020】図 3 は、このような基本仕様のプレゼンテーションからオプションの選択を行うための画面例である。図の画面 16 は基本仕様の注文住宅斜視図を表示したものである。図 2 のステップ S3 において、顧客は例えば屋根のオプションを選択する。この場合、図 3 に示す画面 16 の屋根の部分にカーソルを重ねてクリックする。これによってオプション選択用の画面 17 が表示される。こうしたオプション選択用の画面は、オプションの部分拡大図や建物の平面図・立面図・外観パース・内観パースなど、様々な図面を取り入れて表示するとよい。

【0021】顧客は、オプション選択画面 17 に表示された例えば屋根材のサンプルの各イメージ画像を比較して、好みの色や模様の屋根を選択する。なおこの際、オプション選択画面 17 にはガイダンス 18 が表示され、顧客が適切な屋根材を選択できるように促す。またこのほかに音声などによる案内が行われてもよい。ここで顧客がオプションを決定し、見積もりボタン 19 をクリックすると、実際に基本仕様の住宅にそのオプションを適用した結果を示す画面 20 が表示される。さらに図 2 のステップ S4 に進み、見積もり計算結果が表示される。

【0022】この選択結果は、あとで説明する処理のために、全て記憶装置 6（図 1）に記憶される。顧客は、そのオプションが気に入れば、確定ボタン 22 をクリックする。一方、気に入らなければそのオプションの選択をキャンセルする。確定ボタン 22 がクリックされると、選択した結果を示すデータが記憶装置 6 に記憶される。このデータは、例えば図 3 に示すように、部材コード 24、使用箇所 25、見積額 26 あるいは、その他の部材の仕様、数量などのデータにより構成される。

【0023】図 2 のステップ S6 において、全てのオプションの選択が終了したかどうかを判断する。全てのオプションの選択を終了していない場合にはステップ S2 に戻り、別のオプションの選択を実行する。全てのオプションの選択を終了するとステップ S7 に進み、選択結果を示すデータをホストコンピュータに転送するプログラム 15 が起動する。これは、図 1 で説明した。これによりコンピュータ 2 はネットワーク 3 を通じてホストコンピュータ 4 に接続される（図 2 ステップ S7）。そして選択結果がホストコンピュータ 4 に転送される（図 2 ステップ S8）。

【0024】以上のように、顧客は、提供する住宅の基本仕様を解説する文字データや音声案内データ、基本仕

様の各部のイメージデータ、例えば、屋根の葺きあがったイメージ写真や、システムキッチンのイメージ写真、部屋や壁、屋根などの積算面積データ、建築に必要な部材の数量等を画面に表示しながら、様々なオプションを選択する。なお、記憶装置に記憶された選択結果は、コンピュータがオフラインで操作されていて、コンピュータの電源を遮断しても消えないような記憶とするのが望ましい。即ち、オプションの選択後ただちにプログラムにより選択結果を転送してもよいし、いったんコンピュータの電源を落とし、任意のタイミングで上記選択結果を転送するプログラムを起動してもよい。

【0025】図4は、具体的な見積もり計算のためのプログラムの動作フローチャートである。図1に示した見積もり計算をするプログラム13は、この図のように動作する。まず、図のステップS1において、見積額の初期値として基本仕様の見積額をセットする。次にステップS2においてオプションを選択すると、ステップS3において図3に示した見積もりボタン19がクリックされたかどうかを判断する。見積もりボタン19がクリックされない場合には別のオプション選択のためにステップS2に戻る。見積もりボタン19がクリックされた場合には、ステップS4に進みオプションの差額計算を行う。

【0026】さらに、ステップS5において、見積額に対し上記差額を加算して新たな見積額にする。ステップS6では新たな見積額を画面20(図3)の表示欄21に表示する。ステップS7で確定ボタン22がクリックされたかどうかを判断する。確定ボタン22がクリックされた場合にはステップS8に進み、図3に示した部材コード24や使用箇所25等のデータを記憶装置6に記憶する。一方、確定ボタン22の代わりにキャンセルボタン23がクリックされたときは、見積額を元に戻して(図4ステップS9)ステップS2に戻る。

【0027】なお、顧客に予算額の入力を求めて、この予算額と選択したオプションの価格の総額とを比較した結果を表示するように制御することもできる。顧客は通常、総額としていくらかといった予算を意識しながらオプションを選択する。そこで、はじめからその予算額の入力を求めて、予算額の範囲でオプションを選択できるようにしてもよい。このために、予算額と選択したオプションの価格の総額を比較した結果をその都度表示するとよい。このデータは、例えば、予算額との差額であってもよいし、予算額との比を表示するものであってもよい。また、例えば、同種のオプションを選択する場合に、予算にあったオプションのみが選択肢に表示されるような制御を行ってもよい。

【0028】ところで、次の具体例では、オプションの選択結果だけでなく、顧客によるオプションの選択確定までの操作過程を情報として取得する処理の説明をする。例えば、上記のオプション選択処理で、あるオプション

は、顧客の興味をひくが見積価格が高い等の理由で最終的には選択されないことがある。また、家族で相談をしながらオプション選択をする場合には、多くの場合、様々なオプションを何度も選択しては見積もりを繰り替えすといったことが行われる。

【0029】こういったオプション選択決定までの操作過程とオプション選択決定の結果とを記録したデータを取得することで、顧客の好みを把握し、不適切なオプションの選択があった場合に、適切な選択を進め、的確なアドバイスをするための参考資料とすることができる。そこで、例えば、図2のステップS5において、オプションの選択決定までに中間的に選択された各オプションの選択回数(アクセスカウント)や表示時間のデータを取得する。

【0030】図5はオプション選択とそのログデータ取得手順の具体例を示すフローチャートである。顧客が例えば、壁材についてオプションの選択作業をする場合を考える。顧客は、はじめにオプションAを選択し(ステップS1)、その見積額を見る(ステップS3)。この見積額を見て、顧客は、今度はオプションBを選択しなおす(ステップS5)。こうして、オプションBを選択した場合の見積額を見る(ステップS7)。ここで、顧客は再度オプションAを選択して、再考の上、選択を確定させる。この過程でプログラムは、ステップS2、ステップS6、ステップS10において、それぞれ各オプションが選択された回数をカウントする。

【0031】以上の処理により、オプションAは2回、オプションBは1回選択されたというデータが記憶される。また、ステップS4、ステップS8、ステップS12で、それぞれ、顧客がオプションを選択して表示した画面を見た時間を計測して、その時間を積算する。例えば、オプションBを選択した結果を示す画面20のような画面を30秒眺めたとすれば、その結果をタイマに積算する。例えば、上記AやBとは別に、オプションCやDを選択してみたけれども、気に入らなかったという場合がある。各見積額表示画面を見る時間が長いものは興味のあるオプションであり、短いものは興味の無いオプションである。タイマの値はこれを明確に表示している。

【0032】従って、選択の経過を確認して、その選択の理由を顧客に問い合わせれば、必要に応じて適切なアドバイスをすることができる。また、顧客の興味の全く無いものは、選択から除外して適正な選択をアドバイスできる。また、以上の方法によれば、顧客が答えとして出した第一希望だけでなく、答えとして出されていない第2希望の内容を、顧客の意識無しに、顧客に負担をかけずに情報として取得できるという効果がある。また、選択された回数(アクセスカウント)や表示時間と、採用に至ったモデルの件数比較等を行うことで、オプション部材の企画・開発に使用可能な情報を取得できる。

【0033】図6はホストコンピュータ側のシステムの詳細を示すブロック図である。上記のようにしてオプションを選択した結果は、図のようなホストコンピュータに転送される。ホストコンピュータ4は、ネットワーク3に接続されている。このホストコンピュータ4にはホストコンピュータ4を制御するプロセッサ35と記憶部36が設けられている。この記憶部36に、ネットワーク3を通じて上記のオプションを選択した結果を示すデータ41が転送されて記憶される。このデータ41は、例えば部品コード42、使用箇所43、数量44、見積額45、ログデータ46等を含む。これらのデータを利用して、受注確定のための資料47や、仕様書48や、マーケティング資料49などを生成する。なお、顧客が電子カタログを用いてオプションを選択する段階では、基準仕様に対する差額を見積額として表示して、建物全体の見積書は、ホストコンピュータ側で作成して、顧客のコンピュータに表示するようにしてもよい。

【0034】以上の電子カタログを利用できる商品は、オプション選択の余地のある商品ならばどんな商品でもいい。しかしながら、注文住宅のように、仕様選定作業が複雑で、顧客がかなり長時間をかけて少しずつ順番に仕様を決定していくような商品が最も適する。こうした電子カタログを利用すれば、業者の説明を受けながらでなくとも自由なオプション選定作業ができるため、顧客にとってゆっくりと慎重に仕様を決定することを可能にする。また、業者にとっても、顧客が十分に時間をかけて選択をした結果に基づいてアドバイス等ができるという効果がある。

【0035】さらに、ホストコンピュータに転送されたデータは、その後、そのまま受注、生産等の計画用データに利用できるという効果がある。また、オプション選択の過程を示すログデータは、顧客の希望（第1希望、第2希望・・・）といった思考過程をつかむのに有用な情報となり、新規商品の開発等のマーケティング情報としても利用できるという効果がある。このほかに、取得したデータを地域毎に集計して、地域に合致した商品提案を行ったり、職業別、年収別等の分類集計による顧客分析ができる。さらに、初めて家の検討を行う顧客に対してもワンツーワン・マーケティング的な提案を行えるようになる。

【0036】なお、上記の例では、オプション選択の結果は、自動的にホストコンピュータに転送されるようにしたが、この転送方法は、メールでもその他のデータ転送方法でも自由に設定して構わない。また、例えば、工務店で顧客操作により電子カタログを操作し、工務店のコンピュータに記憶させ、その後工務店のコンピュータをホストコンピュータに接続して選択結果を転送するようにしてもよい。もちろん、上記のコンピュータには、モバイルコンピュータやコンピュータと同等の機能を持つ携帯電話、ゲーム機やテレビジョン等も含まれるものとする。

【0037】また、各図に示した各データやプログラムは、それぞれ別々のモジュールにより構成してもよいし、一体化したモジュールにより構成してもよい。また、これらのブロックの全部または一部を論理回路によるハードウェアで構成しても構わない。また、各プログラムモジュールは、既存のアプリケーションプログラムに組み込んで動作させてもよいし、独立のプログラムとして動作させてもよい。また、上記のような電子カタログは、

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の電子カタログ及び顧客情報取得システムの具体例を示すブロック図である。

【図2】上記のシステムを用いたオプションの選択とその結果の送信動作を示すフローチャートである。

【図3】このような基本仕様のプレゼンテーションからオプションの選択を行うための画面例である。

【図4】具体的な見積もり計算のためのプログラムの動作フローチャートである。

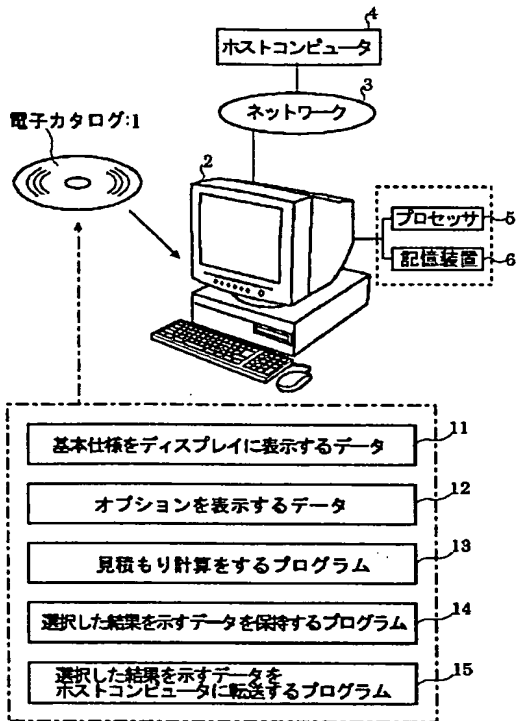
【図5】オプション選択とそのログデータ取得手順の具体例を示すフローチャートである。

【図6】ホストコンピュータ側のシステムの詳細を示すブロック図である。

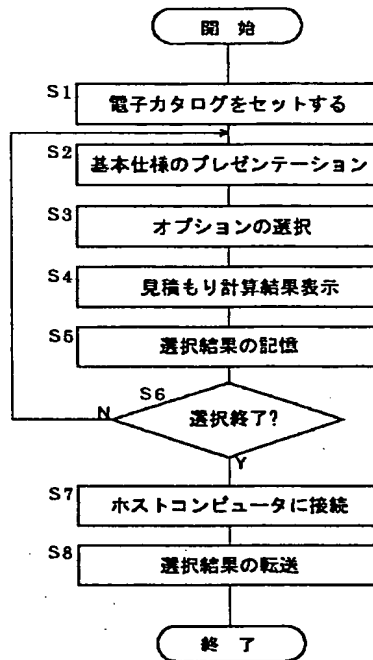
【符号の説明】

- 1 電子カタログ
- 2 コンピュータ
- 3 ネットワーク
- 4 ホストコンピュータ
- 5 プロセッサ
- 6 記憶装置

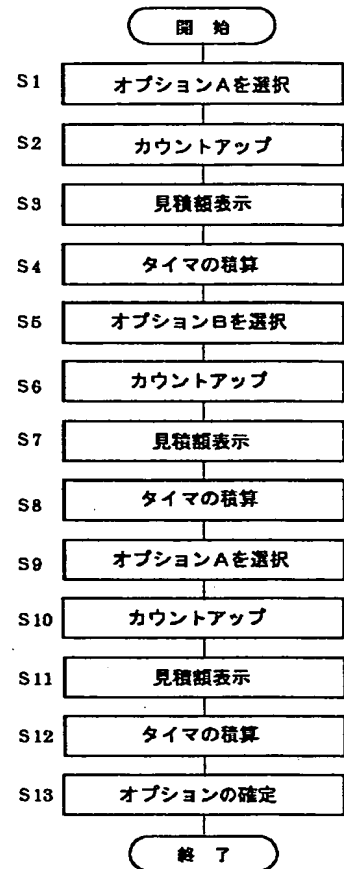
【図 1】



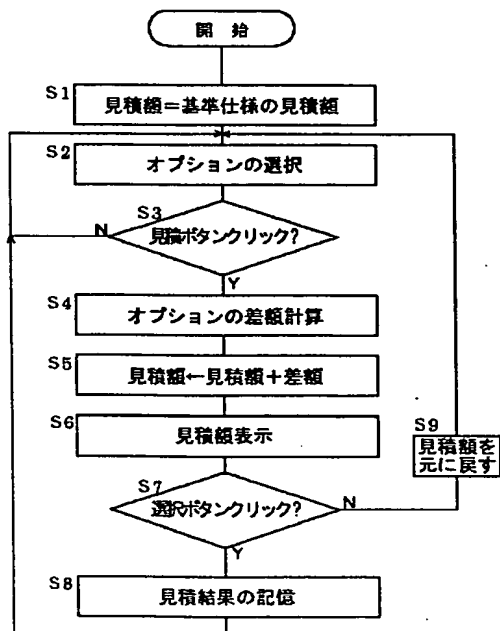
【図 2】



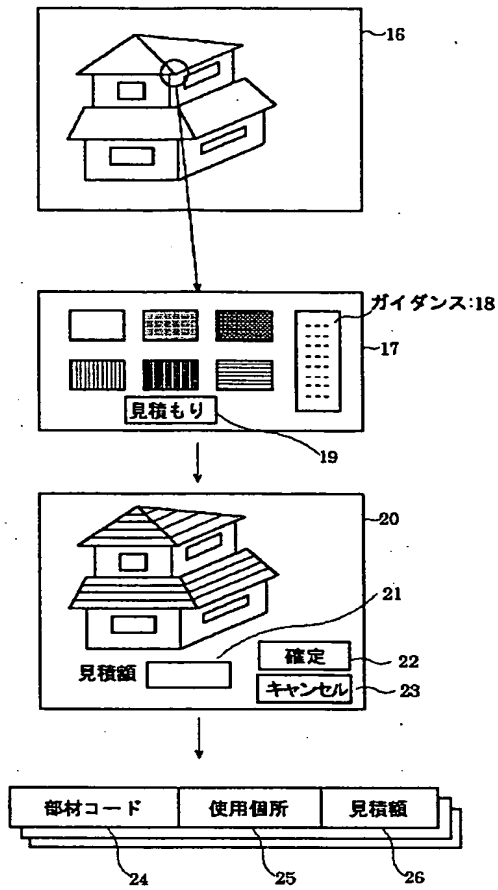
【図 5】



【図 4】



【図 3】



【図 6】

